

3. 事業計画の進捗・達成状況

1. はじめに

学園は今後も建学の精神と伝統を継承して「十年先、二十年先に役立つ人づくり」のため、常に将来を見据え時代を先取りした教育体制の構築に尽力しつつ、着実な発展を続けていくための教育研究環境の整備充実に一層の力を注いだ。

2. 大学について

基本方針

大学創立20周年（平成7年）にあたり、学園創立以来の建学の精神と伝統を受け継ぎながら、男女共同参画、生涯学習、国際化社会、障がい者や環境にやさしい社会といった時代と社会の要請に応え、大学の理念を「違いを共に生きる」と定め、この理念を具体的に実現するため「地域に根ざし、世界に開く」「役立つものと変わらないもの」「たくましさややさしさを」の三つのテーマを掲げ、男女共学体制に移行した。

その後、この理念にそって、学部、研究科の設置、改組を進めるとともに、学生の学びの質を充実するために、常にカリキュラムを検討し、教育研究体制の改善充実に努めてきた。

また、地域社会に貢献し連携をさらに図るため諸機関の附設を行ってきたところである。

2020年度は、この基本方針の下に、「愛知淑徳大学ビジョン2020」及び「中期計画2020年～2024年」を策定し、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価の結果を踏まえて、次のような事業に取り組んだ。

(1) 120周年記念事業 長久手キャンパス整備計画

愛知淑徳学園創立120周年記念事業として、長久手キャンパス整備を計画するにあたり基本設計を行った。

(2) 健康医療科学部スポーツ・健康医科学科救急救命学専攻の開設及び救急救命学専攻関連施設改修工事

2021年4月より、健康医療科学部スポーツ・健康医科学科（入学定員130名）にスポーツ・健康科学専攻（募集定員100名）と救急救命学専攻（募集定員30名）の2専攻制を導入する。

救急救命学専攻については、救急救命に係る高度な専門知識・技能を有し、健康社会に対応できる専門職である救急救命士を目指すことが可能となる関連施設を設置するため体育館の一部を改修した。

(3) 学資援助制度の改正

2020年4月より国の高等教育への修学支援制度（日本学生支援機構の給付型奨学金の拡充と授業料等の減免）が開始されることに伴い、本学の学資援助制度を以下のとおり改正した。

① 経済支援から奨励型への変更

国の高等教育への修学支援制度は、これまで本学独自の学資援助として経済的理由により就学が困難な学生に対し給付してきた「特別給付奨学金（経済支援）1」及び「特別給付奨学金（経済支援）2」とその対象者の大部分が重複するため、本学の独自の奨学金の目的を経済支援から成績優秀者への奨励に改めた。

② 留学希望者への支援の充実

交流協定校の増加によって留学を希望する学生は増加傾向にあり、より多くの学生に交換留学の機会を与えるため、「特別給付奨学金4（留学生支援）」を充実させた。

③ 臨時経済支援、臨時緊急支援の追加

新型コロナウイルス感染症の影響で、家計が急変し、経済的に就学が困難となった学生を支援するため、上記①の特別給付奨学金1（後援会からの寄付）に臨時経済支援、臨時緊急支援を追加（同窓会からの寄付）した。

（4）学務システムサーバのデータセンターへの移管

大学の基幹業務の運用を行う学務システムを学内サーバから、データセンターへ移管した。

データセンターへシステムを移管することにより、災害時の迅速なシステム復旧を可能にし、1号棟の建替えにもシステムへの影響を最小限に留めることが可能となる。

（5）新型コロナウイルス感染症への対応

特別奨励金の給付、特別給付奨学金（臨時経済支援・臨時緊急支援）の給付、健康管理手帳の配付、オンライン授業への環境整備、換気・消毒の徹底、マスクの購入等様々な新型コロナウイルス感染症への対応を行った。

（6）教育研究体制の充実

中期計画を踏まえ教育研究等環境の充実のため、学務システムのハードウェアのクラウド化、一般教室の操作卓のAV機器のリプレイス、新1号棟・13号棟建設及び既設校舎改修計画のための積み立て（4年目）、電話自動交換機（PBX）の更改工事、ソシオメディアラボのシステムのリプレイス、建築・インテリアデザイン専攻の材料実験室の実験機器の更新、GHP空調機の更新工事、サブアリーナ空調設備設置工事、屋外キュービクル新設工事、キャンパス東側車路整備工事、受変電設備部分更新工事、電子カルテ・レセコンシステムのリプレイス（クリニック）を行った。

3. 中学校・高等学校について

中学、高校教育において、情報活用能力、情報モラルの習得、有害情報への対応などはますます重要度を増しており、そのための環境整備として、PC、ソフトウェア、管理サーバ、タッチパネル制御システム等、PCLL システムの更新をおこなった。これら情報機器の充実は、英語のいわゆる「4技能」の習得だけでなく、中高中期計画で示された、自ら学習する習慣・態度や基礎学力を身に着けさせることにも大きく寄与するものである。

清明館から白梅館への定電圧電気幹線の絶縁不良を解消する工事を行った。これにより、経年劣化による感電や火災の危険性を大幅に小さくすることが可能となった。